

- 6) 松尾宣武、John I Takayama、衛藤謙勝、市川
家国、藤村正哲、高橋孝雄、鴨下重彦
母子、小児医療データベースの構築（第2
報）：日本小児科学会会員マスタファイル
（案）
日本医師会雑誌 印刷中、2005
- 6) Nobutake Matsuo, John I Takayama, Kazuko
Takemura, Shigehiko Kamoshita
Japanese National Medical Plan and Maternal and
Child Health Care
Japan Medical Association Journal in print 2005
- 7) Mikako Inokuchi, Tomonobu Hasegawa, Makoto
Anzo, Nobutake Matsuo
Standardized centile curves of body mass index
for Japanese children and adolescents based on the
1978-1981 national survey data
Annals of Human Biology in print 2005
学会発表
- 1) 松尾宣武
福井県医師会社会保険指導者講演会 平成16
年3月4日 福井市
症状から考える子どもの心
- 2) Nobutake Matsuo
- Second International Symposium on Maternal and
Child Health
Women's Health: Lessons Learned from North
America and Japan
Tokyo, March 13, 2004
Introduction
- 3) 松尾宣武
第107回日本小児科学会学術集会 総合シンポ
ジウム「小児科・産科若手医師の確保育成の
ために」平成16年4月9日、岡山市
小児科医、産科医のworkforceの現状と問題点
- 4) 松尾宣武
小児科産科若手医師の確保・育成に関する研
究 平成16年度第1回全体会議
平成16年11月5日、東京
群馬県小児二次医療体制に関する検討
- 5) 松尾宣武
日本学術会議、出生・発達障害研究連絡委員
会共催公開シンポジウム 子どものこころの
問題：診療のシステム作りと医師の育成につ
いて
基調講演 わが国の小児精神保健医療に求め
られるもの 平成17年3月19日、東京

小児科複数教授制度導入に関する研究

【分担研究者】 衛藤 義勝 東京慈恵会医科大学小児科教授

■研究要旨

小児科若手医師の確保・育成のため（1）若手小児科医の勤務意識調査（2）小児科研修医の仕事ストレス調査を行った。（1）について明らかになったことは若手医師の約半数は小児科を辞めようと考えた経験を有しており、辞めようと思った医師の背景で多かったのは研修・仕事以外の自由な時間がないこと、収入が少ない、研修・仕事内容が適切でないであった。また、辞めようと思ったことがある医師においては研修・仕事に関する相談者がいない割合が高かった。（2）について明らかになったことは研修医のストレスの要因として有意なのは仕事量の多さと身体疲労、医者間の人間関係と評価、仕事の要求水準の高さであった。残業時間の多さ、当直回数の多さは仕事ストレス、タイプA行動は仕事ストレスに対して促進的に作用していた。仕事の要求水準の高さはカタルシス、回避的思考、放棄・諦めというストレス対処法をとらせ、このストレス対処法はさらに精神的身体症状を促進させていると考えられた。この仕事の要求水準の高さは、女性は男性に比較し、前期研修医は後期研修医に比較しより感じていた。以上の結果から研修医の過酷な勤務条件及び医者間の人間関係の改善が若手医師の確保・育成に必要であり、相談者の存在や性・研修時期に配慮した適切な研修プログラムの構築がストレス抑制に重要であることが明らかとなった。

若手小児科医の勤務意識に関する研究 I.小児科を辞めようとする背景を探る

【分担研究者】 衛藤 義勝 東京慈恵会医科大学小児科 教授
【研究協力者】 井田 博幸 東京慈恵会医科大学小児科 助教授
【研究協力者】 上原 里程 自治医科大学公衆衛生学 助手

■研究要旨

A. 目的

若手小児科医がどのくらい研修や勤務状況に不満を抱いており、他科への転向など小児科を辞めようと考えているのかを把握することは、今後の適切な小児医療供給体制を考えるにあたり極めて重要である。

我々は、平成14年度厚生労働科学研究「小児科産科若手医師の確保・育成に関する研究」で実施したプレテストの結果を踏まえて、平成16年度には全国の若手小児科医を対象に「若手小児科医の勤務意識についてのアンケート調査」を実施した。この調査結果より、小児科医を辞めようとした要因を明らかにし、若手小児科医にとって小児科医師を継続する適切な勤務環境とは何かについて提言する。

B. 対象と方法

1. 対象

日本小児科学会のご協力のもと、30歳以下（平成16年9月24日現在）の学会会員名簿を作成して頂き、住所不明などの107人を除いた2242人のうち、①医学部卒業3年未満の67人および②年齢25歳以下の150人を除いた2025人を母集団とした。これは、卒後3～6年目の小児科医に相当する。

母集団のなかから1013人を系統抽出し、これを調査対象集団とした。

2. 方法

- (1) 研究デザイン：自記式質問紙による横断研究
- (2) 平成16年11月に調査対象集団1013人に対し

「若手小児科医の勤務意識についてのアンケート調査（付録1）」を郵送した。回答は無記名とし、個人情報保護の観点から、氏名や住所など個人を同定できる情報は収集しなかった。

調査項目は、性、年齢、卒業後の年数、現在の勤務先、勤務先の所在地、月当たりの当直回数、勤務先での具体的な研修プログラムの有無、勤務先での専属の指導医の有無、仕事の相談に応じてくれる人の有無、小児科医を辞めたいと思ったことがあるか、後輩へ小児科をすすめるか、研修・仕事に不満を感じるか、などである。

これらの項目について、1) 男女別、2) 小児科医を辞めたいと思ったことの有無別に観察した。2) 小児科医を辞めたいと思ったことの有無については、「現在辞めようと思っている」「過去に辞めようと思ったことがある」「思ったことはない」のカテゴリーに分けた。

年齢は平均値などを示し、2群間の差の検定はt検定を、3群間の場合は一元配置分散分析（ANOVA）を用いて検定した。また性などのカテゴリーデータの場合は、 χ^2 検定を行った。いずれも統計ソフトSPSS 11.0J for Windowsを用いた。

C. 結果

対象者1013人のうち、348人から回答があり、回収率は34.4%であった。このうち卒業年数が3-6年目でなかった45人を除いた303人（全体の29.9%）について解析した。回答者の性別は、男性156人（51.5%）、女性146人（48.2%）、不明1人（0.3%）であった。

1 男女別の観察

1-1 年齢

全体の平均年齢は28.6歳であり、男性28.6±1.2歳（平均±標準偏差）、女性28.4±1.2歳であった。

1-2 医学部卒業年数

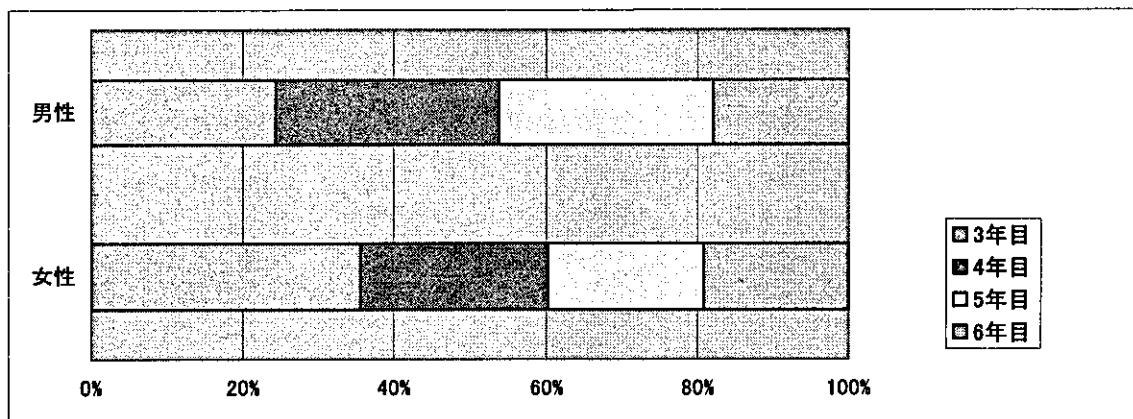
医学部卒業年数は、全体では3年目が90人（29.8%）と最も多く、6年目が最も少なかった（表1）。性別には、女性において3年目の割合が35.6%と多く、卒後3年目のなかでは男性よりも女性の割合が大きかった（図1）。近年、20歳台の小児科医の半数は女性医師である状況を反映しているものと思われる。

表1 医学部卒業年数

卒業年数	男	女	計
3年目	38	52	90
4年目	46	36	82
5年目	44	30	74
6年目	28	28	56
計	156	146	303

性別不明の1人を除く。

図1 医学部卒業年数別の割合



1-3 現在の主たる勤務先

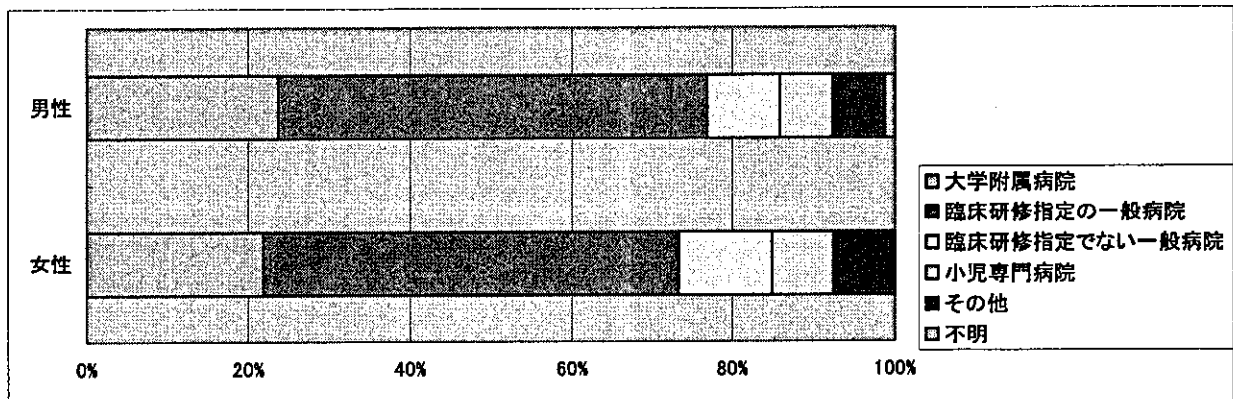
全体では、臨床研修指定の一般病院での勤務割合が最も大きかった（158人、52.3%）（表2）。これは、男女とも共通の傾向であった（図2）。大学附属病院勤務割合は、男性で23.7%、女性で21.9%であった。

表2 現在の主たる勤務先

現在の主たる勤務先	男	女	計
大学附属病院	37	32	69
臨床研修指定の一般病院	83	75	158
臨床研修指定でない一般病院	14	17	31
小児専門病院	10	11	21
その他	10	11	21
不明	2	0	2
計	156	146	302

性別不明の1人を除く

図2 現在の主たる勤務先割合



1-4 現在の主たる勤務先の所在地（都道府県）

石川県と徳島県を除く44都道府県に勤務所在地が分布していた。勤務地として多いのは、東京、大阪、愛知、福岡といった大都市部であり、全国の小児科医の分布と大きな隔たりはなかった。

表3 現在の主たる勤務先の所在地（都道府県）

主たる勤務先の所在地	男	女	計
北海道	7	5	12
青森	1	0	1
岩手	1	0	1
宮城	3	3	6
秋田	1	1	2
山形	3	0	3
福島	2	1	3
茨城	4	0	4
栃木	1	2	3
群馬	0	5	5

平成16年度厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）小児科産科若手医師の確保・育成に関する研究
分担研究報告書

埼玉	4	4	8
千葉	5	5	10
東京	18	19	37
神奈川	3	8	11

主たる勤務先の所在地	男	女	計
新潟	1	2	3
富山	3	3	6
福井	3	0	3
山梨	2	1	3
長野	2	2	4
岐阜	3	3	6
静岡	7	2	9
愛知	7	11	18
三重	0	3	3
滋賀	1	4	5
京都	4	3	7
大阪	19	13	32
兵庫	6	5	11
奈良	1	3	4
和歌山	1	1	2
鳥取	1	3	4
島根	3	2	5
岡山	4	2	6
広島	0	3	3
山口	4	1	5
香川	1	2	3
愛媛	2	4	6
高知	4	1	5
福岡	10	3	13
佐賀	1	2	3
長崎	1	2	3
熊本	1	2	3
大分	4	2	6
宮崎	1	1	2
鹿児島	1	1	2
沖縄	5	3	8
不明	0	3	3
計	156	146	302

性別不明の1人を除く。石川県、徳島県は男女とも回答なし。

1-5 現在の主たる勤務先での小児医療への関わり

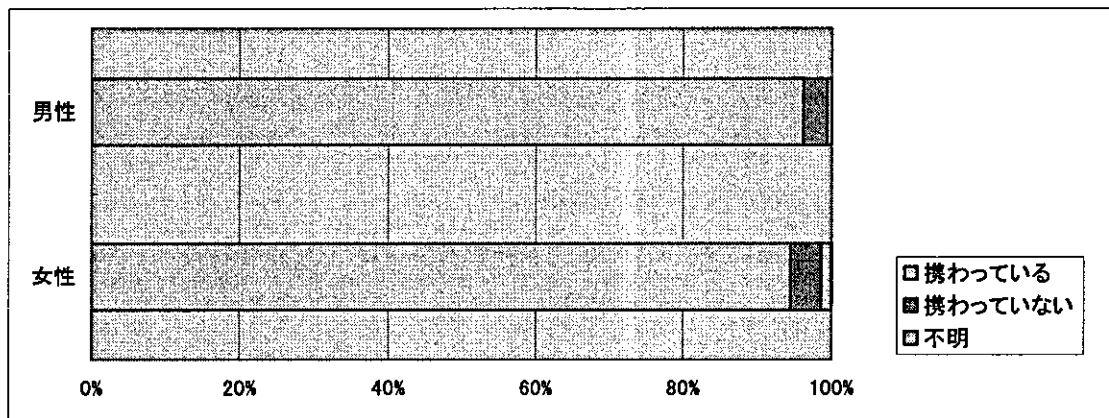
288人（95.4%）がなんらかの形で小児医療に携わっていた（表4、図3）。小児医療に携わっていない割合は、男性3.2%、女性4.1%であり、有意な差はなかった（ $p=0.74$ ）。

表4 現在の主たる勤務先での小児医療への関わり

小児医療に携わっているか	男	女	計
携わっている	150	138	288
携わっていない	5	6	11
不明	1	2	3
計	156	146	302

性別不明の1人を除く。

図3 現在の主たる勤務先の小児医療に携わっている割合



1-6 勤務しているすべての医療機関での、月当たりの当直回数

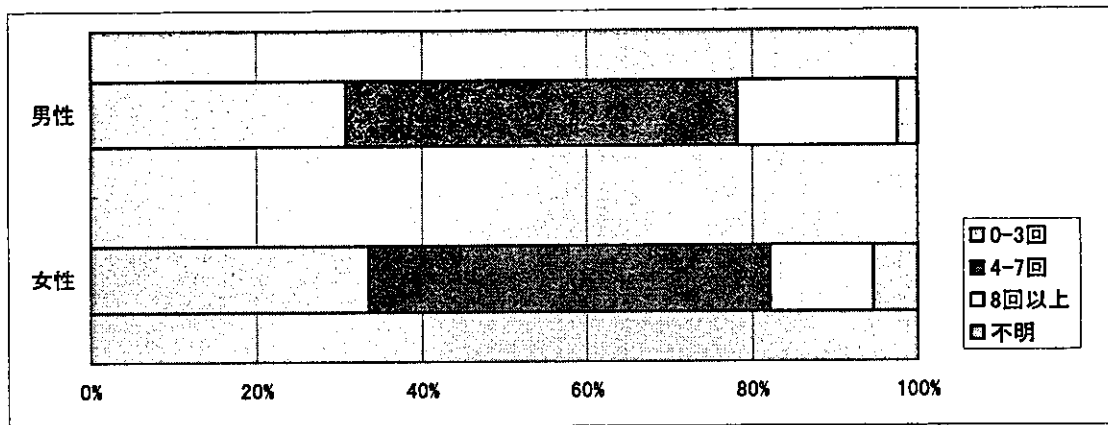
全体では月に4-7回当直をしている人数が145人（48.0%）と最も多く、男女とも同様の傾向であった（表5、図4）。月8回以上当直をしている割合は、男性19.2%、女性12.3%と男性の方がやや多い傾向にあったが有意な差ではなかった（ $p=0.25$ ）。

表5 勤務しているすべての医療機関での、月当たりの当直回数

月当たりの当直回数	男	女	計
0-3回	48	49	97
4-7回	74	71	145
8回以上	30	18	48
不明	4	8	12
計	156	146	302

性別不明の1人を除く。

図4 勤務しているすべての医療機関での、月当たりの当直回数



1-7 現在の主たる勤務先での、具体的な研修プログラムの有無

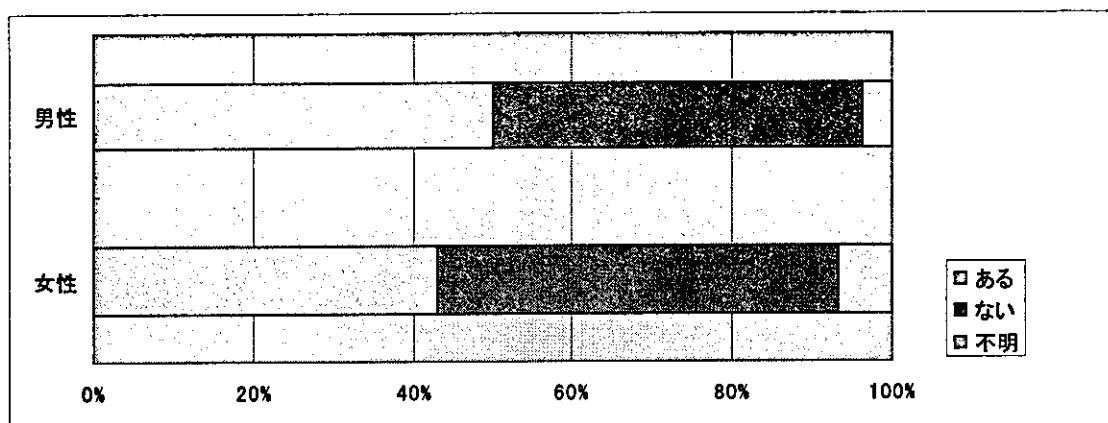
主たる勤務先での具体的な研修プログラムがあると回答したのは141人（46.7%）、ないと回答したのは145人（48.0%）とほぼ同じ人数であった（表6、図5）。男女別には、研修プログラムがあると回答した男性が50.0%であったのに対して、女性は43.2%とやや小さい割合であった。しかしこれらの割合に有意な差はなかった（ $p=0.32$ ）。

表6 現在の主たる勤務先での、具体的な研修プログラムの有無

具体的な研修プログラム	男	女	計
ある	78	63	141
ない	72	73	145
不明	6	10	16
計	156	146	302

性別不明の1人を除く。

図5 現在の主たる勤務先での、具体的な研修プログラムの有無



1-8 現在の主たる勤務先での、専属の指導医の有無

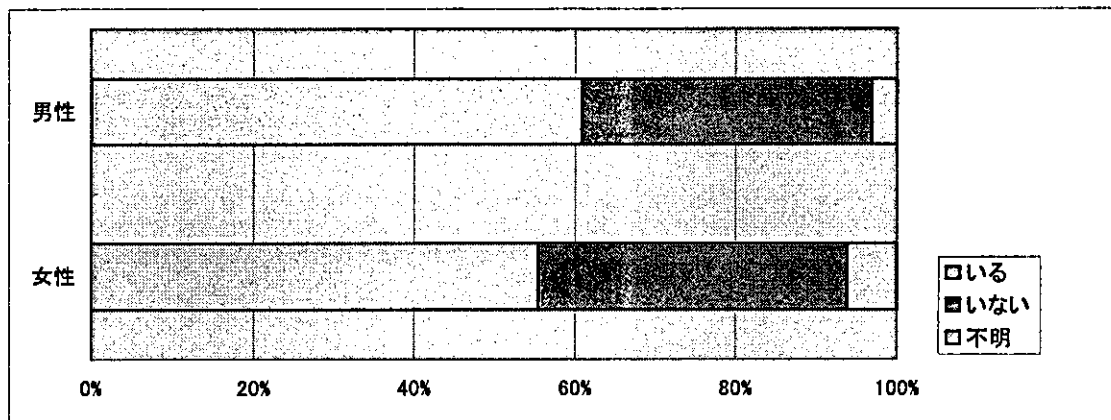
専属の指導医がいると回答したのは176人（58.3%）であり、男性では95人（60.9%）、女性では81人（55.5%）であった（表7、図6）。男性の割合がやや大きい傾向であったが、有意な差ではなかった（ $p=0.38$ ）。

表7 現在の主たる勤務先での、専属の指導医の有無

専属の指導医	男	女	計
いる	95	81	176
いない	56	56	112
不明	5	9	14
計	156	146	302

性別不明の1人を除く。

図6 現在の主たる勤務先での、専属の指導医の有無



1-9-1 卒後研修を含めて、仕事について相談に応じてくれる人の有無

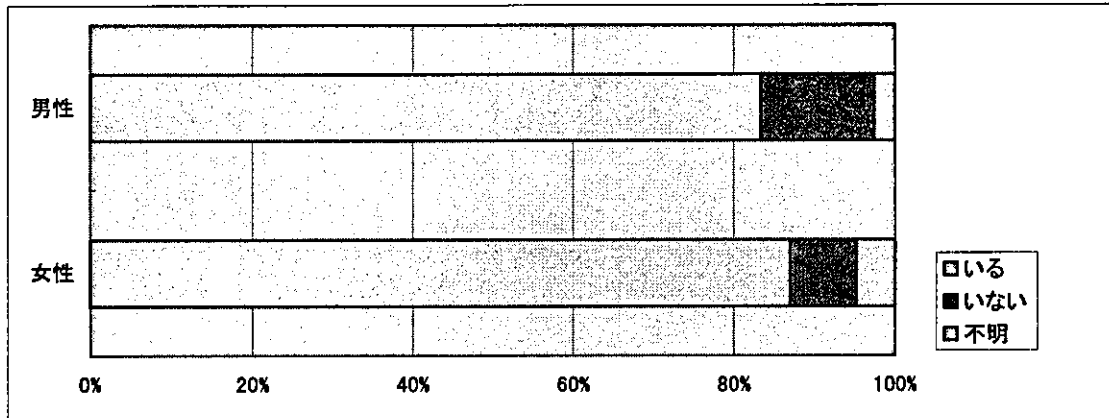
研修や仕事の相談に応じてくれる人がいる、と回答したのは257人（85.1%）であり、男女ともに同様の傾向であった（表8-1、図7-1）。相談に応じてくれる人がいない割合は男性の方が女性に比べ、やや大きい傾向であったが、有意な差ではなかった（14.1% vs 8.2%, $p=0.18$ ）。

表8-1 卒後研修を含めて、仕事についての相談に応じてくれる人の有無

相談に応じてくれる人	男	女	計
いる	130	127	257
いない	22	12	34
不明	4	7	11
計	156	146	302

性別不明の1人を除く。

図 7-1 卒後研修を含めて、仕事についての相談に応じてくれる人の有無



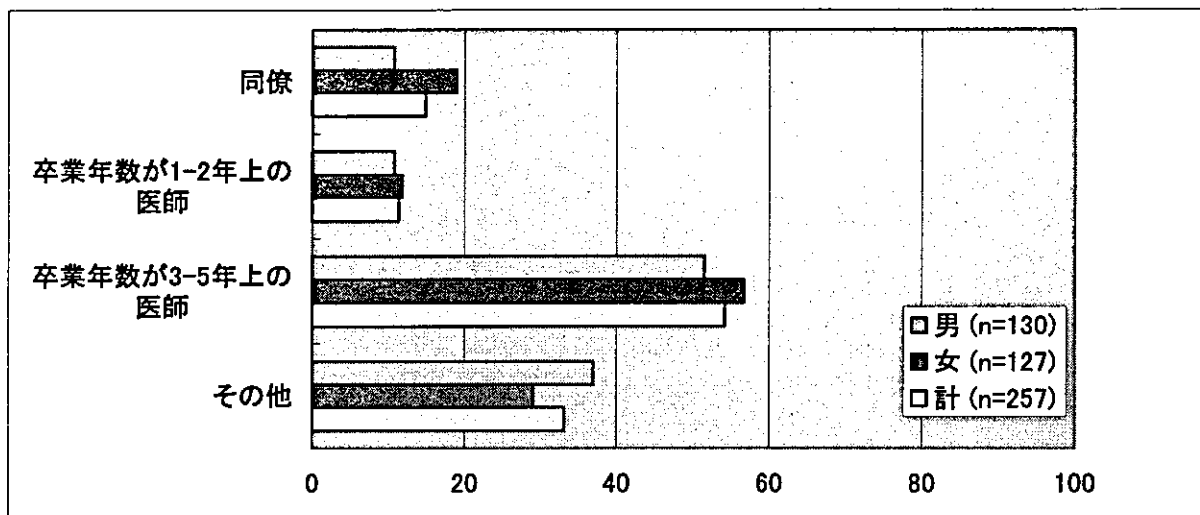
1-9-2 相談に応じてくれる人の内訳

研修や仕事の相談に応じてくれる人がいる257人（男130人、女127人）のうち、同僚が14.8%（男10.8%、女18.9%）、卒業年数が1-2年上の医師が11.3%（男10.8%、女11.8%）、卒業年数が3-5年上の医師が54.1%（男51.5%、女56.7%）、その他が33.1%（男36.9%、女29.1%）であった（表8-2、図7-2）。相談に応じてくれる人では、卒業年数が3-5年上の医師である割合が最も大きく、男女とも同様の傾向であった。その他の中には、教授や部長、医局長といった記載があった。

表 8-2 「相談に応じてくれる人がいる」と回答したものの内訳（複数回答）

主に相談に応じてくれる人の内訳	男 (n=130)	女 (n=127)	計 (n=257)
同僚	14	24	38
卒業年数が1-2年上の医師	14	15	29
卒業年数が3-5年上の医師	67	72	139
その他	48	37	85

図 7-2 「相談に応じてくれる人がいる」と回答したものの内訳



1-10 小児科医を辞めたいと思ったことがあるかどうか

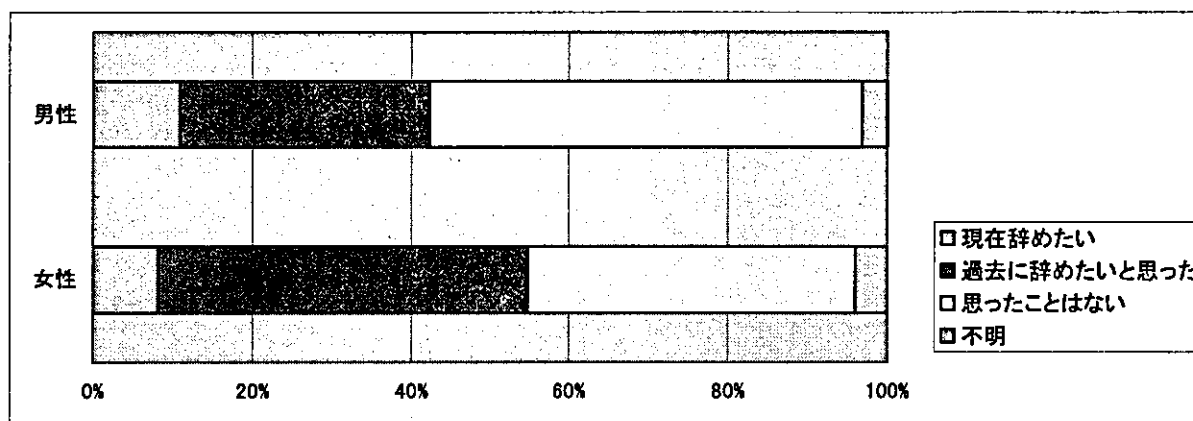
現在辞めたいと思っている小児科医は、29人（9.6%）、過去に辞めたいと思ったことがある医師は117人（38.7%）、思ったことはない医師は145人（48.0%）であった。男女別には、現在辞めたいと思っている医師が男性10.9%、女性8.2%であり、男性の割合が女性より大きかった（表9、図8）。過去に辞めたいと思ったことがある医師の割合は、男性で31.4%であったのに対し、女性では46.6%と大きかった。これらの割合には男女で有意な差があった（ $p=0.045$ ）。現在辞めたいと思っている医師と過去に辞めようと思った医師の割合を合計すると、全体で48.3%（男性42.3%、女性54.8%）であり、約半数の医師が一度は小児科医を辞めようと考えていた。

表9 小児科医を辞めたいと思ったことの有無

辞めたいと思ったこと	男	女	計
現在、辞めたいと思っている	17	12	29
過去に辞めたいと思ったことがある	49	68	117
思ったことはない	85	60	145
不明	5	6	11
計	156	146	302

性別不明の1人を除く。

図8 小児科医を辞めたいと思ったことの有無



1-11-1 後輩から進路について相談を受けた際に、小児科を勧めるかどうか

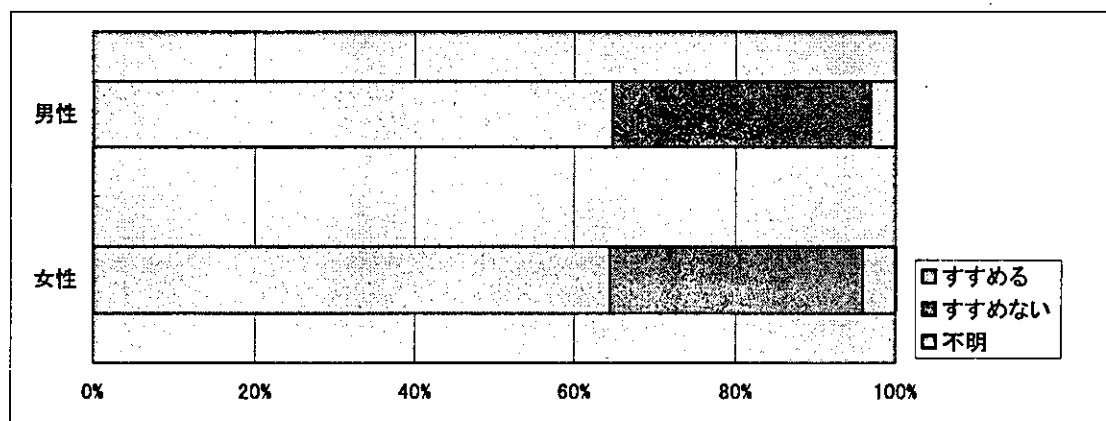
後輩に小児科を勧めると回答したのは195人（64.6%）であり、男女ともほぼ同様の割合であった（表10-1、図9-1）。一方、30%程度の小児科医が、後輩に小児科を勧めないと回答していた。

表 10-1 後輩から進路について相談を受けた際に、小児科を勧めるかどうか

後輩に、小児科を勧めるか	男	女	計
すすめる	101	94	195
すすめない	50	46	96
不明	5	6	11
計	156	146	302

性別不明の1人を除く。

図 9-1 後輩から進路について相談を受けた際に、小児科を勧めるかどうか



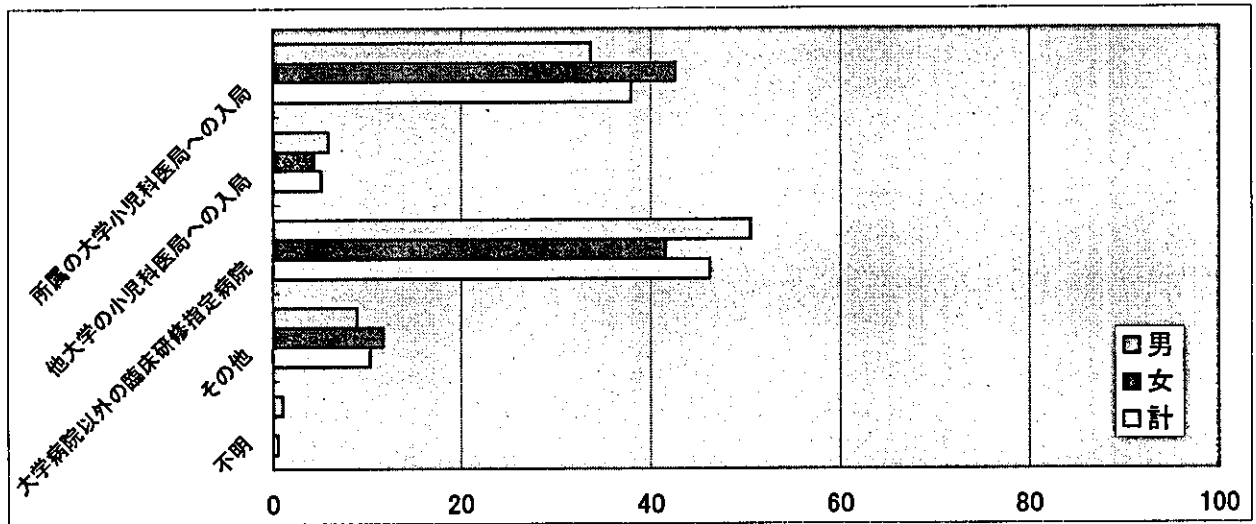
1-1-2 後輩に小児科を勧める場合の、勧める研修先

後輩に小児科を勧めると回答した195人（男101人、女94人）について観察した。勧める研修先で最も多かったのは「大学病院以外の臨床研修指定病院」であり、90人（46.2%）が回答していた（表10-2、図9-2）。男女別には、男性は「大学病院以外の臨床研修指定病院」を勧める割合が50.5%と最も大きく、女性では「所属の大学小児科医局への入局」を勧める割合が42.6%と最も大きかった。

表 10-2 後輩に小児科を勧める場合の、勧める研修先

勧める研修先の内訳	男	女	計
所属の大学小児科医局への入局	34	40	74
他大学の小児科医局への入局	6	4	10
大学病院以外の臨床研修指定病院	51	39	90
その他	9	11	20
不明	1	0	1
計	101	94	195

図 9-2 後輩に小児科を勧める場合の、勧める研修先



1-12-1 小児科医として、これまでの研修・仕事に不満を感じるかどうか

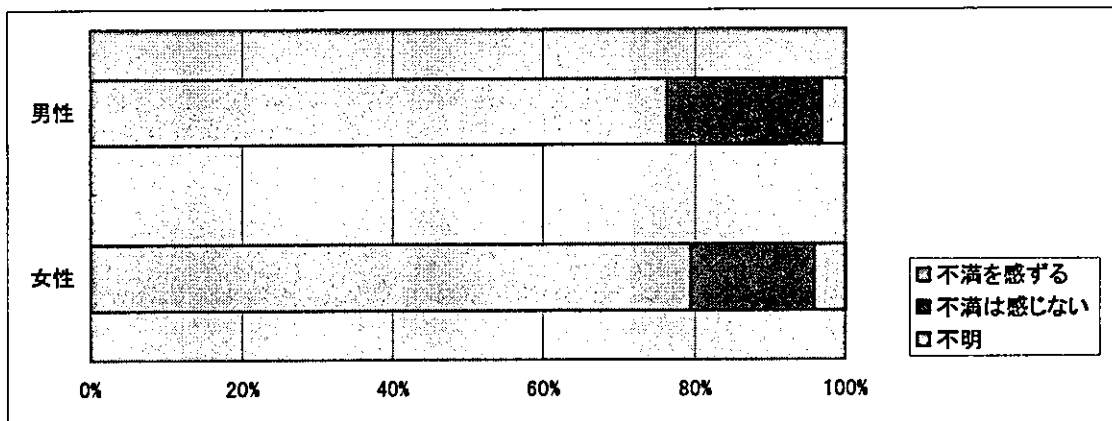
これまでの研修や仕事に不満を感じると回答した医師は235人（77.8%）であり、男性119人（76.3%）、女性116人（79.5%）であった（表11-1、図10-1）。

表 11-1 小児科医として、これまでの研修・仕事に不満を感じるかどうか

研修・仕事の不満	男	女	計
不満を感じる	119	116	235
不満を感じない	32	24	56
不明	5	6	11
計	156	146	302

性別不明の1人を除く。

図 10-1 小児科医として、これまでの研修・仕事に不満を感じるかどうか



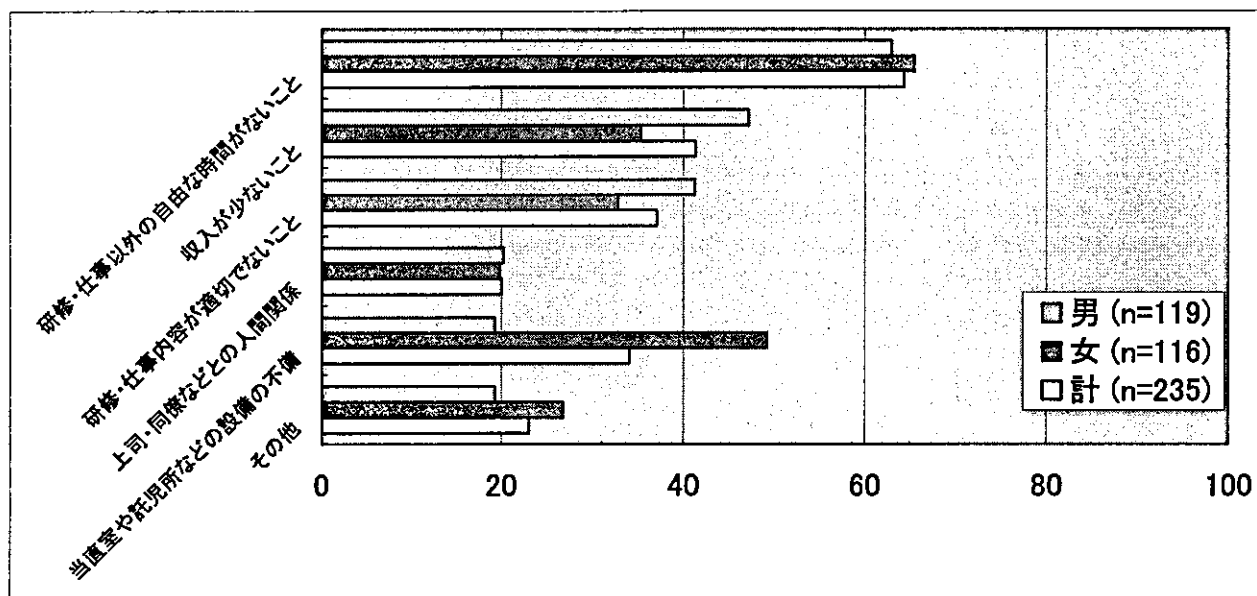
1-12-2 研修や仕事に不満を感じる場合の内訳

これまでの研修や仕事に不満を感じると回答した235人（男119人、女116人）についてその内訳を観察した。不満を感じる事項として回答数の多い順に「研修・仕事以外の自由な時間がないこと（64.3%）」「収入が少ないこと（41.3%）」「研修・仕事内容が適切でないこと（37.0%）」「当直室や託児所などの設備の不備（34.0%）」「その他（23.0%）」「上司・同僚などとの人間関係（20.0%）」であった（表11-2、図10-2）。男女ともに「研修・仕事以外の自由な時間がないこと」の回答が最も多かったが、男性では「収入が少ないこと」が47.1%で続いたのに対し、女性では「当直室や託児所などの設備の不備」が49.1%と続いた。

表 11-2 研修・仕事に不満を感じる場合の内訳（複数回答）

不満に感ずる事項	男 (n=119)	女 (n=116)	計 (n=235)
研修・仕事以外の自由な時間がないこと	75	76	151
収入が少ないこと	56	41	97
研修・仕事内容が適切でないこと	49	38	87
上司・同僚などとの人間関係	24	23	47
当直室や託児所などの設備の不備	23	57	80
その他	23	31	54

図 10-2 研修・仕事に不満を感じる場合の内訳（複数回答）



1-13 今後の育児休暇取得希望

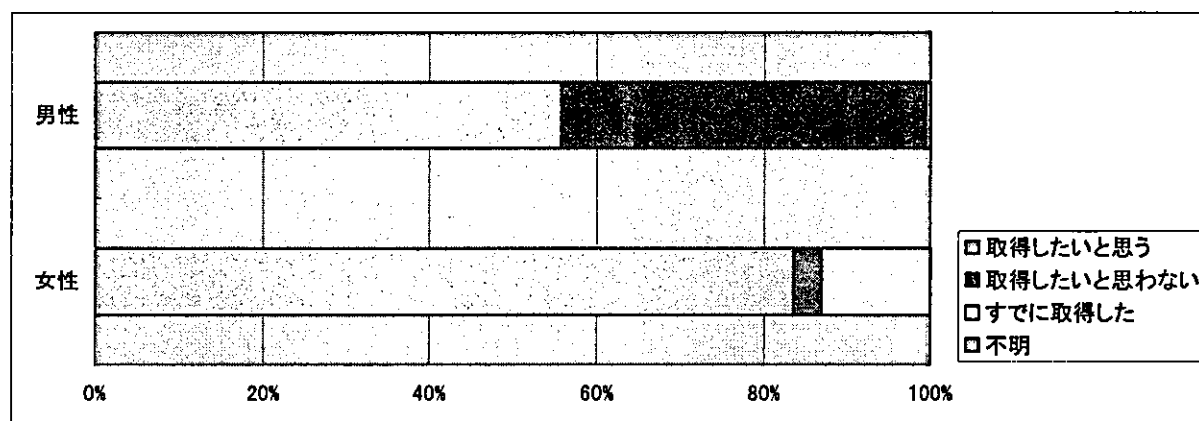
育児休暇の希望については、全体の209人（69.2%）が希望ありと回答した（表12、図11）。すでに女性のうち13.0%は育児休暇を取得していたが、83.6%は今後の育児休暇を希望していた。一方、男性でも55.8%が育児休暇を希望していた。育児休暇希望の有無について男女別の比較では、有意な差が観察された（ $p < 0.001$ ）。

表 12 今後の育児休暇取得希望

育児休暇取得希望	男	女	計
希望あり	87	122	209
希望なし	68	5	73
すでに取得した*	0	19	19
不明	1	0	1
計	156	146	302

性別不明の1人を除く。*: 現在取得中の場合を含む。

図 11 今後の育児休暇取得希望



2 小児科を辞めようと思っているかどうかという視点からの観察

2-1 性別

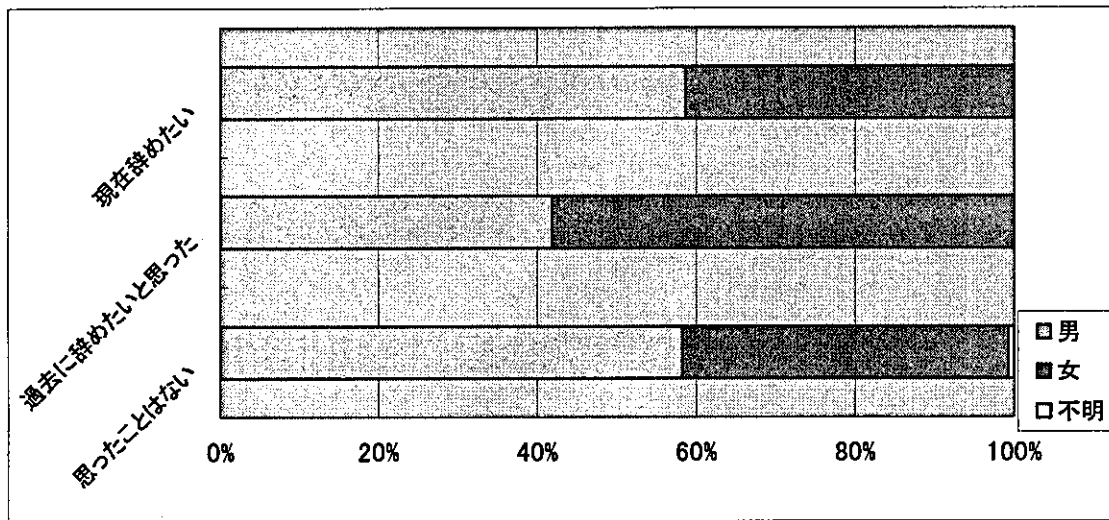
「現在辞めたいと思っている」と回答したのは29人（9.9%）、「過去に辞めたいと思ったことがある」と回答したのは117人（40.1%）、「思ったことはない」が146人（50.0%）であった。対象者の半数は、現在あるいは過去に小児科医を辞めたいと思った経験を有していた。現在辞めたいと思っている医師のうち、男性は17人（58.6%）、女性は12人（41.4%）であり、男性の割合が大きかった（表13、図13）。一方、過去に辞めたいと思ったことがある割合は男性41.9%に対し女性58.1%であり、女性の割合が大きかった。これらの小児科医を辞めようと思っている割合については、男女間で有意な差は観察されなかった（ $p=0.07$ ）。

表 13 性別の観察

性別	現在辞めたい	過去に辞めたいと 思った	思ったことはな い	計
男	17	49	85	151
女	12	68	60	140
不明	0	0	1	1
計	29	117	146	292

未回答の11人を除く。

図 12 性別の観察



2-2 年齢

現在辞めたいと思っている医師の平均年齢は28.9歳（標準偏差：1.1歳）、過去に辞めようと思った医師は28.6歳（標準偏差：1.2歳）、思ったことがない医師は28.5歳（標準偏差：1.2歳）であり、3群間に有意な差はなかった（ $p=0.42$ ）。

2-3 医学部卒業年数

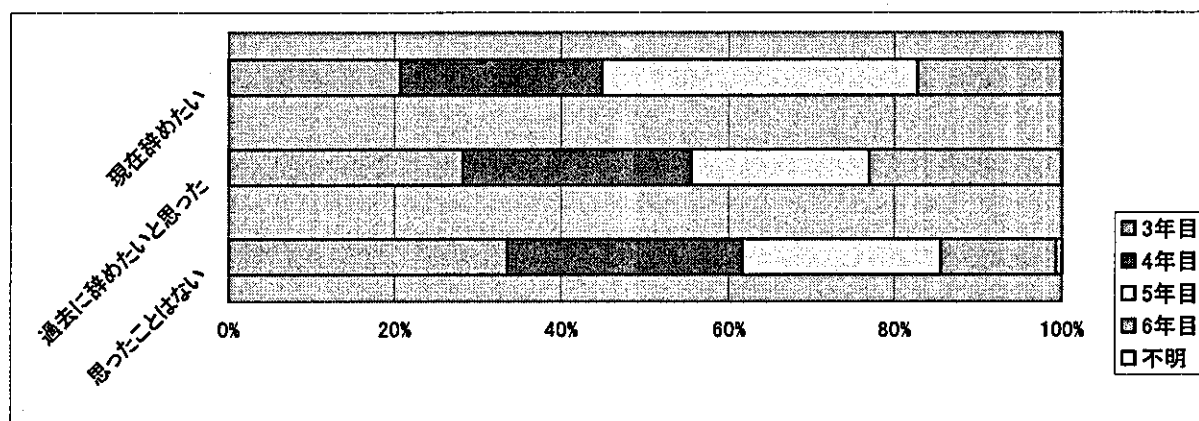
現在辞めたいと思っている医師のなかで卒業5年目の医師が11人（37.9%）と最も多かったのに対し、過去に辞めたいと思ったことがある医師は卒業3年および4年目がそれぞれ28.2%、27.4%と同程度であった（表14、図14）。また、辞めたいと思ったことがない医師で最も大きな割合を占めたのは、卒業3年目の医師（33.6%）であった。卒業年数に3群間で有意な差はなかった（ $p=0.38$ ）。

表 14 医学部卒業年数

卒業年数	現在辞めたい	過去に辞めたいと 思った	思ったことはな い	計
3年目	6	33	49	88
4年目	7	32	41	80
5年目	11	25	35	71
6年目	5	27	20	52
不明	0	0	1	1
計	29	117	146	292

未回答の11人を除く。

図 13 医学部卒業年数



2-4 現在の主たる勤務先

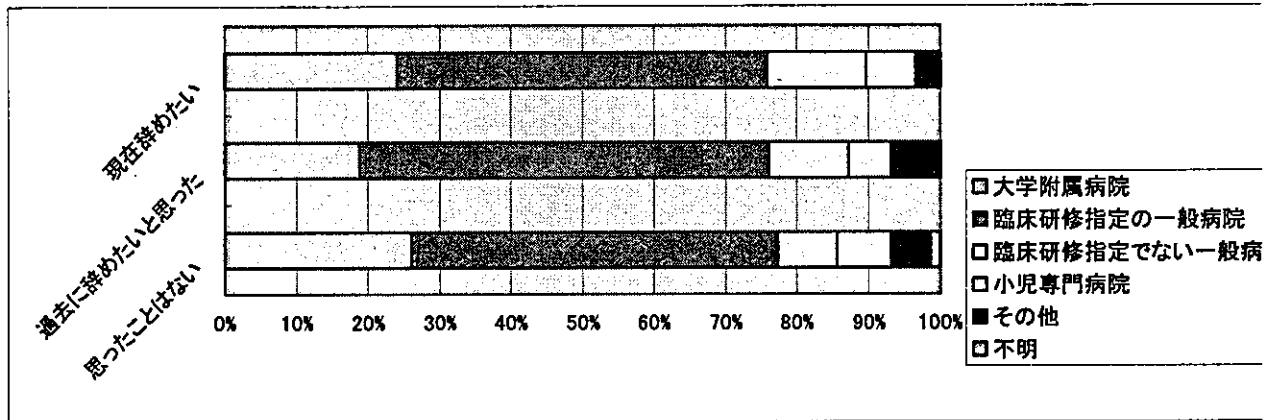
現在辞めたいと思っている医師では「臨床研修指定の一般病院」での割合が51.7%で最も大きかったが、他の2群でも同様の割合であった（表15、図15）。現在辞めたいと思っている医師では「臨床研修指定でない一般病院」に勤務する割合が13.8%であり、過去に辞めたいと思った医師11.1%と想ったことのない医師8.2%よりもその割合が大きい傾向にあった。勤務先に関しては3群間に統計的には有意な差はなかった（ $p=0.84$ ）。

表 15 現在の主たる勤務先

現在の主たる勤務先	現在辞めたい	過去に辞めたいと思った	思ったことはない	計
大学附属病院	7	22	38	67
臨床研修指定の一般病院	15	67	75	157
臨床研修指定でない一般病院	4	13	12	29
小児専門病院	2	7	11	20
その他	1	8	8	17
不明			2	2
計	29	117	146	292

未回答の11人を除く。

図 14 現在の主たる勤務先



2-5 勤務しているすべての医療機関での、月当たりの当直回数

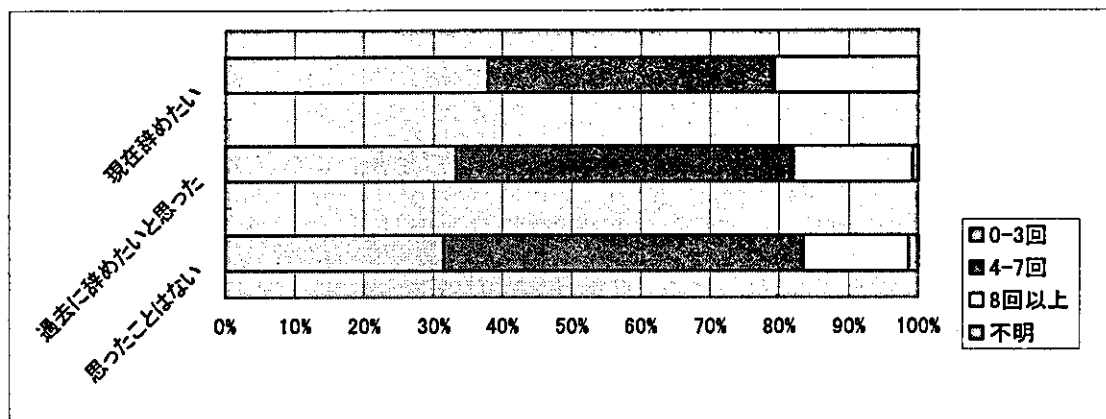
現在辞めたいと思っている医師では月4-7回の当直である割合が41.1%と最も大きかったが、他の2群も同様であった (表16、図15)。月8回以上の割合が、現在辞めたいと思っている医師では20.7%であり、過去に辞めたいと思った医師17.1%、思ったことのない医師15.1%に比べて大きい傾向にあった。月当たりの当直回数については3群間で有意な差ではなかった (p=0.93)。

表 16 勤務しているすべての医療機関での、月当たりの当直回数

月当たりの当直回数	現在辞めたい	過去に辞めたいと思った	思ったことはない	計
0-3回	11	39	46	96
4-7回	12	57	76	145
8回以上	6	20	22	48
不明	0	1	2	3
計	29	117	146	292

未回答の11人を除く。

図 15 勤務しているすべての医療機関での、月当たりの当直回数



2-6 現在の主たる勤務先での、具体的な研修プログラムの有無

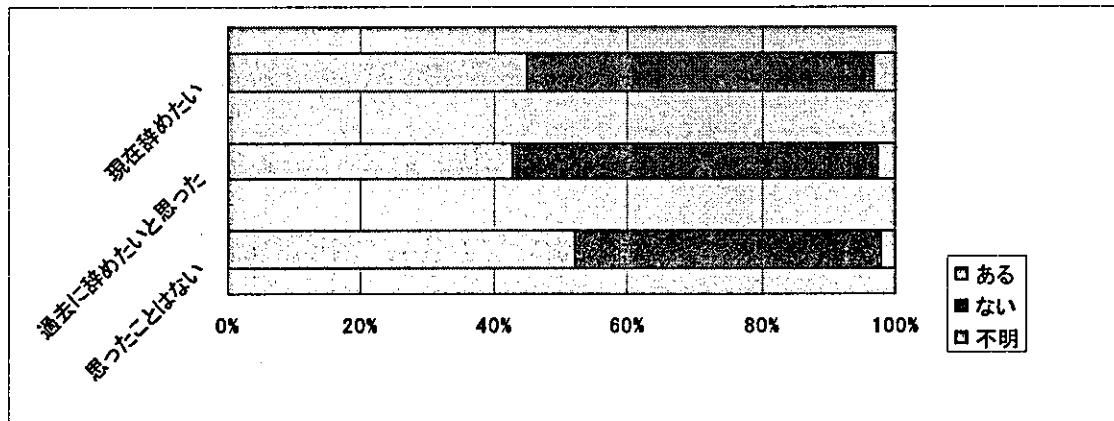
現在辞めたいと思っている医師のなかで研修プログラムがないと回答した割合は51.7%、過去に辞めたいと思ったことのある医師では54.7%であったのに対し、思ったことはないという医師では45.9%とやや小さい割合であったが、3群間で有意な差はなかった（ $p=0.65$ ）（表17、図16）。

表 17 現在の主たる勤務先での、具体的な研修プログラムの有無

具体的な研修プログラム	現在辞めたい	過去に辞めたいと思った	思ったことはない	計
ある	13	50	76	139
ない	15	64	67	146
不明	1	3	3	7
計	29	117	146	292

未回答の11人を除く。

図 16 現在の主たる勤務先での、具体的な研修プログラムの有無



2-7 現在の主たる勤務先での、専属の指導医の有無

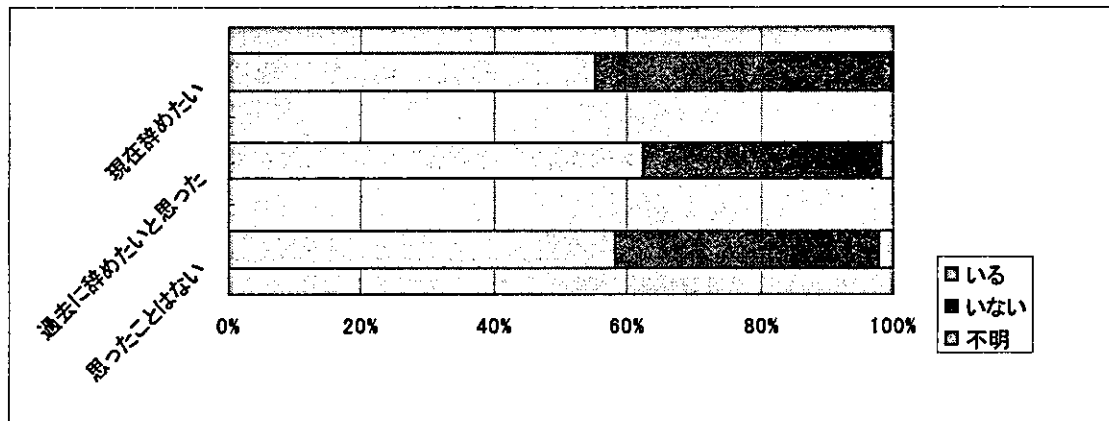
専属の指導医がない割合は、現在辞めたいと思っている医師の44.8%であるのに対し、思ったことのない医師では39.7%と少なかった（表18、図17）。一方、過去に辞めたいと思ったことのある医師では35.9%とさらに少なかった。しかし、これら3群間では有意な差はなかった（ $p=0.84$ ）。

表 18 現在の主たる勤務先での、専属の指導医の有無

専属の指導医	現在辞めたい	過去に辞めたいと思った	思ったことはない	計
いる	16	73	85	174
いない	13	42	58	113
不明	0	2	3	5
計	29	117	146	292

未回答の11人を除く。

図 17 現在の主たる勤務先での、専属の指導医の有無



2-8-1 卒後研修を含めて、仕事についての相談に応じてくれる人の有無

研修や仕事の相談に応じてくれる人がないと回答した割合は、現在辞めたいと思っている医師の27.6%であったのに対し、過去に辞めたいと思った医師では12.0%、思ったことのない医師では6.8%であり、現在辞めたいと思っている医師では相談に応じてくれる人のない割合が有意に大きかった (p=0.01) (表19-1、図18-1)。相談に応じてくれる人がいない割合は、辞めようと思ったことがない医師に比べ、過去に辞めたいと思った医師で2倍、現在辞めようと思っている医師で4倍の大きさであった。

表 19-1 卒後研修を含めて、仕事についての相談に応じてくれる人の有無

相談に応じてくれる人	現在辞めたい	過去に辞めたいと思った	思ったことはない	計
いる	21	103	134	258
いない	8	14	10	32
不明	0	0	2	2
計	29	117	146	292

未回答の11人を除く。

図 18-1 卒後研修を含めて、仕事についての相談に応じてくれる人の有無

